

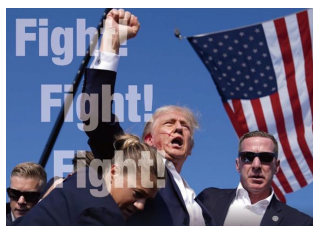
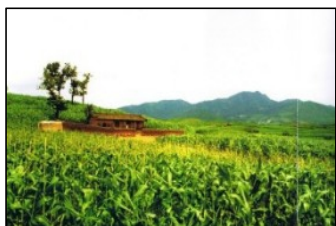


聖地定州解放・トランプ革命促進祈願

聖地巡礼

【ガイドブック】

文鮮明先生ゆかりの地を訪ねて
＜早稲田～高田馬場～代々木＞



「聖地定州」の解放と
トランプ革命の促進を願って

巡礼箇所一覧

■集合：東京メトロ東西線早稲田駅3b出口

■巡礼コース

1 早稲田大学早稲田キャンパス

- ①早稲田高等工学校校舎跡
- ②高田早苗像
- ③大隈講堂

2 箱根山（戸山公園内）

- ①三朝庵跡
- ②父の木・母の木
- ③箱根山山頂

3 西早稲田～高田馬場駅

- ①留学時代の下宿先－三橋孝蔵・イトさん宅跡
- ②「旧戸塚警察署」跡
- ③「雄鶏舎時計店」跡
- ④高田馬場駅までの道のり

4 代々木公園周辺

- ①代々木聖地
- ②代々木公園
- ③明治神宮

■解散：J R代々木駅



【文鮮明先生日本留学時代まとめ動画】

【早稲田大学早稲田キャンパス】

①早稲田高等工学校校舎跡



当時の校舎



現在の校舎（14号館）

1941年4月「早稲田大学付属早稲田高等工学校電気工学科」入学

②高田早苗像（※高田早苗は早稲田高等工学校の創設者）



後列中央が文鮮明先生



現在の高田早苗像

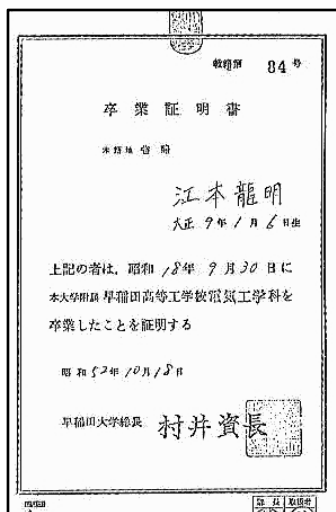
【早稲田大学早稲田キャンパス】

③大隈講堂



早稲田大学大隈講堂前での電気工学科第25回卒業記念撮影
(前から4列目の右から4人が真の御父様)

大隈講堂前で卒業記念撮影
(1943年9月30日)



卒業証書



現在の大隈講堂

【箱根山（戸山公園内）】

①三朝庵（さんちょうあん：1906年創業～2018年閉店）跡



高田馬場の所をズーッと行くと寺があるんだね。右側の方に寺があって、そこからズーッと食堂があるんだよ。どんぶり、小さいお椀ではない。親子丼を7杯。7杯食べてから首を曲げることができない。腹が減った時よりもっと辛い。（1965年10月8日、東京・早成寮）

②父の木・母の木



早稲田大学近くの戸山公園の中に箱根山という小さな山があり、かつては展望台から市街を見渡すことができ、真の御父様が留学しておられた時期に、おそらくここでも祈られたと言われている場所です。

1965年3月に西川先生によって東京の聖地の一つが、この箱根山の中腹に定められました。

（『日本統一運動史』より）

【箱根山（戸山公園内）】

③箱根山山頂



箱根山は、1671年に尾張藩2代藩主・徳川光友が造営を開始し、元禄（1688年～1704年）の時代に完成した大庭園内に築かれた人工の山です。山頂の標高は44.6mで、人工の山ながら東京山手線内の最高峰です。



聖地は天の所有地であるので、お父様は最低限それをサタンの独裁権から神の正当な所有権に戻されます。聖地は象徴的に神の領土です。私たちは聖地が全国そして全世界に広がることを祈るべきです。

聖地は、ある国や市を代表する地域です。それは神の臨在される場所であり、私たちの祈りがより神に達する所でもあります。聖地を通して、神は象徴的にその土地を神のものとして復歸されます。

聖地は神聖な所です。神の土地を復歸することにより、私たちが聖地で祈る時、私たちは神の心情を慰める歴史的祈りを捧げることができます。それゆえに聖地で捧げる祈りは、より大きな結果をもたらすのです。

【西早稲田～高田馬場駅】

①留学時代の下宿先－三橋孝蔵・イトさん宅跡



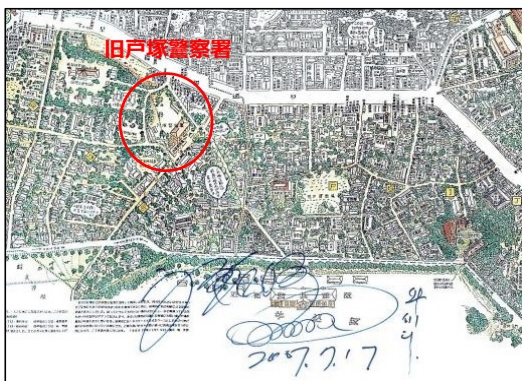
文鮮明先生は、日本留学時代、東京の淀橋区戸塚町1丁目（現在の新宿区西早稲田2丁目）にある三橋家の2階に下宿されました。

写真左上は、1965年1月29日、21年ぶりに来日され、三橋家を探しておられる場面で、左下は三橋イトさんと再会された場面です。



現在の三橋家

②「旧戸塚警察署」跡（現在は警察官舎）



当時の地図

韓国が日本の政権下にあった時、先生は何度も留置所に連れていかれました。これは東京に来た時には、1月に1度は警察署に呼ばれました。その警察署は高田馬場駅の、早稲田大学の右側にありました。（1965年10月8日、東京・早成寮）

【西早稲田～高田馬場駅】

③「雄鷄舎時計店」跡－日本で最初に礼拝が行われた場所

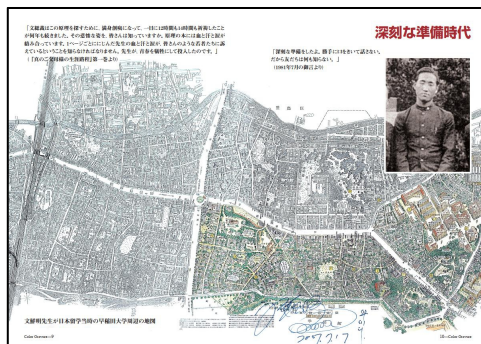


1970年代の「雄鷄舎時計店」

「昭和34年10月2日金曜日、午後7時15分に第1回の礼拝をもって東京統一教会は発足したのである。4月より今日まで原理を信じた兄弟姉妹4人（西川勝・清水義雄・須田トク・田村芳子）と共に礼拝は始められた。司会清水氏。賛美歌と祈りの後、西川勝の聖書拝読。マタイ伝6章25節より終わりまで読み、『義と神の国を求めよ』という題で約30分。8時に終わり、4人で歴史的な礼拝は終わったのである。」

（『成約新聞』創刊号1961. 11. 15、崔宣教師記）

④高田馬場駅までの道のり



早稲田大学の高田馬場の道を、日に二度づつ通いました。よく通ったでしょう。これをもって「あ、近い所に来たから、昔を思い出して行って見て、神に対して祈祷したその祈祷の情が、現在日本の一角に成就した、その感謝の祈祷をしに行きたい」というのです。先生はこのように考えているのです。

もしも先生がこのようにしないでそのまま帰ったら、皆さんがそんな心で早稲田の戸塚町へ、高田馬場から歩いてくれることを望みます。そこにある曲がった道、そこにある電信柱など、先生の涙が染み込んでいると考えて間違いありません。（1965年10月8日、東京・早成寮）

【代々木公園周辺】

①代々木聖地



明治神宮内の聖地
(1965年12月24日撮影)



代々木公園内の聖地
(1968年9月17日撮影)

文鮮明先生は、1965年1月31日の早朝、明治神宮内に東京の中心聖地を定められました。その後、その場所が立入り禁止区域になったため、1968年7月、現在の場所（代々木公園内）に聖地が移されました。

②代々木公園



7月18日



7月21日



8月9日

1973年7月18日、7月21日、8月9日、代々木公園にて、文鮮明先生を中心に聖婚（文聖進様・金東淑様）祝賀会やみ言集会が行われ、1500人以上の教会員が集まりました。

【聖地についてのみ言】

イエス様が生きていらっしゃった当時には、聖地がありませんでした。しかし、統一教会には、「父母の日」、「子女の日」、「万物の日」があり、聖地を選定し、その聖地で祈ることができるというのは、イエス様よりも恵まれていることを知らなければなりません。（『御言選集』17-141 1966.12.11）

山なんか行けば、君たちは知らないけれど、みんな山の主がいます。どこそこの区域は誰それ。だから、祈りに行くというと、その地を占領しているというんですね。山なんか入るといって、名所とか、深い山とか、そういう昔、名高い武士とか、名将とかそういう人たちが、みんな管轄して動かないんですよ。そういう所に行って祈るといって、その所を占領しに来たといっって、みんな攻めかかって来るんですよ。だからそういう現象が起こる。（「そうするとこれから決めて頂く聖地で祈るのが一番いい」）。

そうだ。聖地で祈れば、その圏内がみんな勝利の基準を認めてやると。神のほうが、ある勝利的な条件を立たした所は、サタンは侵入することができないというんです。聖い地、これが必要になって来るんですね。

だから、聖地を決めておけば、霊能者たちはね、「あそこがきれいな所なんだから君もあそこへ行って祈れ」という。霊通する人たちがそういうところで祈るんですね。

（日本語で語られたみ言、1965年2月5日・広島教会）

聖地は神様が訪ねてこられる中心の地。聖地は必ず買わなければならないし、そして売ることはできない地である。聖地にたびたび行きなさい。寝るのも聖地の近くで寝なさい。

聖地は神様の子女たちの面会場所である。

聖地は神様の保護を受ける地である。

聖地は三千里半島（朝鮮半島）を縮小させたもの。

我々は聖地のために、聖殿のために、祝福家庭のために、父母のために誠を尽くそう。（『御旨の道』）

